

徳島市 八万中学校  
3年生 第18号  
2024年11月 5 日  
編集・文責 吉成正士

武田薬品      やはたせいてつ      にちとくかん      ひたち      につせき      こうはん  
八幡製鉄      日特管      日立      日石      鋼鉄

とくそう いでみつ  
徳曹 出光 e t c エトセトラ……………  
ぎっしり並んだ工場地帯  
そのどまん中に位置しながら  
“たかす”にはたった一人の臨時工さえない  
二百戸の家並みがひしめき  
働きざかりの若者がきょうも  
仕事にあぶれているというのに

就職差別があったがゆえに、貧しくならざるを得ませんでした。すべての根源は部落差別でした。  
また結婚について書かれた詩もあります。

## 結婚式

花むこは  
ふた親りっぱにそろっているというのに  
父と母の席は  
空っぽ  
親戚・兄弟・だあれも来てやしない  
一人もいない  
  
そのことに触れはしなかったが  
並んだみんなが知っていた  
その空っぽの席の意味を  
華やいだ式であるだけに  
空席は  
人々の心に  
うずめようのない穴ぼこしらえた  
花むこの故郷では  
母親が云った  
「気だては良うても  
部落とわかっちゃヨメにやでけんし」  
父親が応えた  
「よそん国のオナゴとでも  
いっしょになつてくれたらええのにー  
セガレを一人亡くしたようなもんじゃ」

まったく同じような話を、知り合いから聞いたことがあります。どこか遠いところのお話ではありません。この徳島です。悔しそうに言葉を吐く光景を、私は今も忘れることができません。

こんな丸岡さんの時代の10年後くらいに、部落問題を解決するための国の取組が本格的に始まります。では、今はどうか。

江戸時代の身分制度がなくなって約150年。当事者である被差別部落の人たちが立ち上がった水平社ができて、約100年。丸岡さんの時代から約60年。こんなに時代が進んで、民主主義国家となったにもかかわらず、いまだに大昔の制度を信じる人は、消えていなくなったわけではありません。

今年の春も、昨年の春も、大切な教え子の幸せな結婚式に呼ばれて参列しました。いずれも部落出身の教え子です。中学時代、徹底して人権学習、部落問題学習に取り組んできました。

結婚の話が出たとき、「来たか」とばかりに問います。「部落差別はなかったか」。どちらも、自分のルーツを率直に相手に伝えたうえで、「もうそんな時代じゃない」との言葉をもらって、無事に結婚までたどり着いたと聞きました。どのカップルもそうであってほしいと、心から願いました。

一方で、いまだに恋愛段階で反対されたり、結婚を反対されたりする話を聞きます。すべてが解決しているわけではありません。だから、部落差別をなくしていくための教育はどうしても必要で、大切に取り組んでいかなくてはならないのです。この教育は生きる希望なのです。詩「ふるさと」は、そんな背景、様々な悔しさや悲しさ、怒り、そして未来への希望を感じていなくては、到底理解できないのです。

11月8日(金)には、人権講演会として、弘瀬喜代さんに来校していただきます。数多くの結婚差別に出会い、解決してきた方です。そのお話のなかにも、これから皆さんが生きていくうえで大切にしなければならないヒントがたくさん出てくると思います。しっかり聴いてください。話のあとには、感想や皆さんの思いを述べる時間もあるので、その心づもりもしておいてください。

学年最後の全体人権学習として、私は次のようなテーマを設定しました。

## 「ふるさと」を通して中学生生活をふりかえり、私たちの未来を見つめよう」

11月18日、みんなで語り合う質問は1つだけです。

「ふるさと」のなかで自分に刺さった言葉を通して、大切な友へ、大切な家族へ、大切な故郷へ、自分のなかにある「思い出」を添えて言葉を贈りましょう。また、みんなの発言に言葉を返していきましょう。

「未来」を大切にすることとは、「今」を大切にすることです。大切にすることなくして、「未来」はあり得ません。この時間は、これまで皆さんが辿ってきた人生のなかにある「思い出」を添えて、大切な人に言葉を贈り合う「今」を大切にすることです。また友のそんな言葉に、あなたの言葉を返していく時間です。

自分が書いた文は自分のなかにあるものです。原稿は見なくても発表できます。今回は生きた言葉を届けてみましょう。いくつもあれば、何度でも。

であるならば、言葉は生きた言葉として、相手の目を見て発表することです。それが何人にもなるならば、何回でも発表してください。

以前、元ハンセン病患者の方が若者に、「未来を選べていいなあ」とつぶやいた場面がありました。ハッと気づきます。未来を選べない人生。そんな悲しいことはありません。そんなことがあっていいわけがありません。そんなバカな話があっていいわけがありません。どこに生まれようと、どんな境遇であろうと、人はその人生を思う存分生きるべきです。それができない、許されないことなど、あってはなりません。

人権学習をするということとは、私は、「自分の翼をもつこと」だと思っています。「翼をください」ではなく、「自ら翼を手にすること」です。自らの自由を手にすることです。そんな学びが、皆さんのなかに染み渡っていけばと思います。

「高洲」に自生するという「はまえんどう」。その花言葉は、「人と違う個性を好きになってほしい」だそうです。真の意味で皆さんが、互いのどんな個性も尊重し合い、好きになれる人になってほしいと心から願います。11月18日、思い出に残る時間にしましょう。